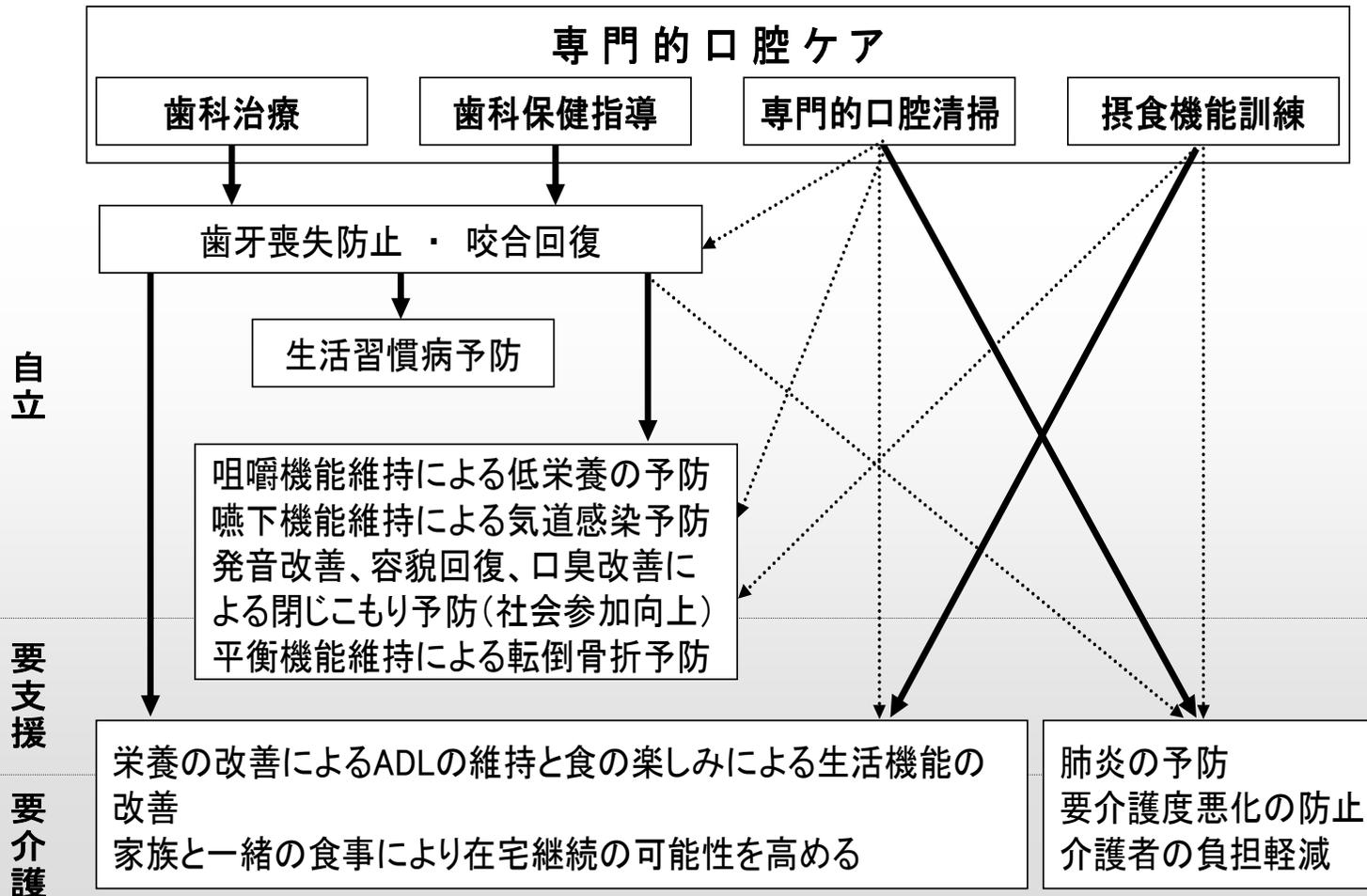
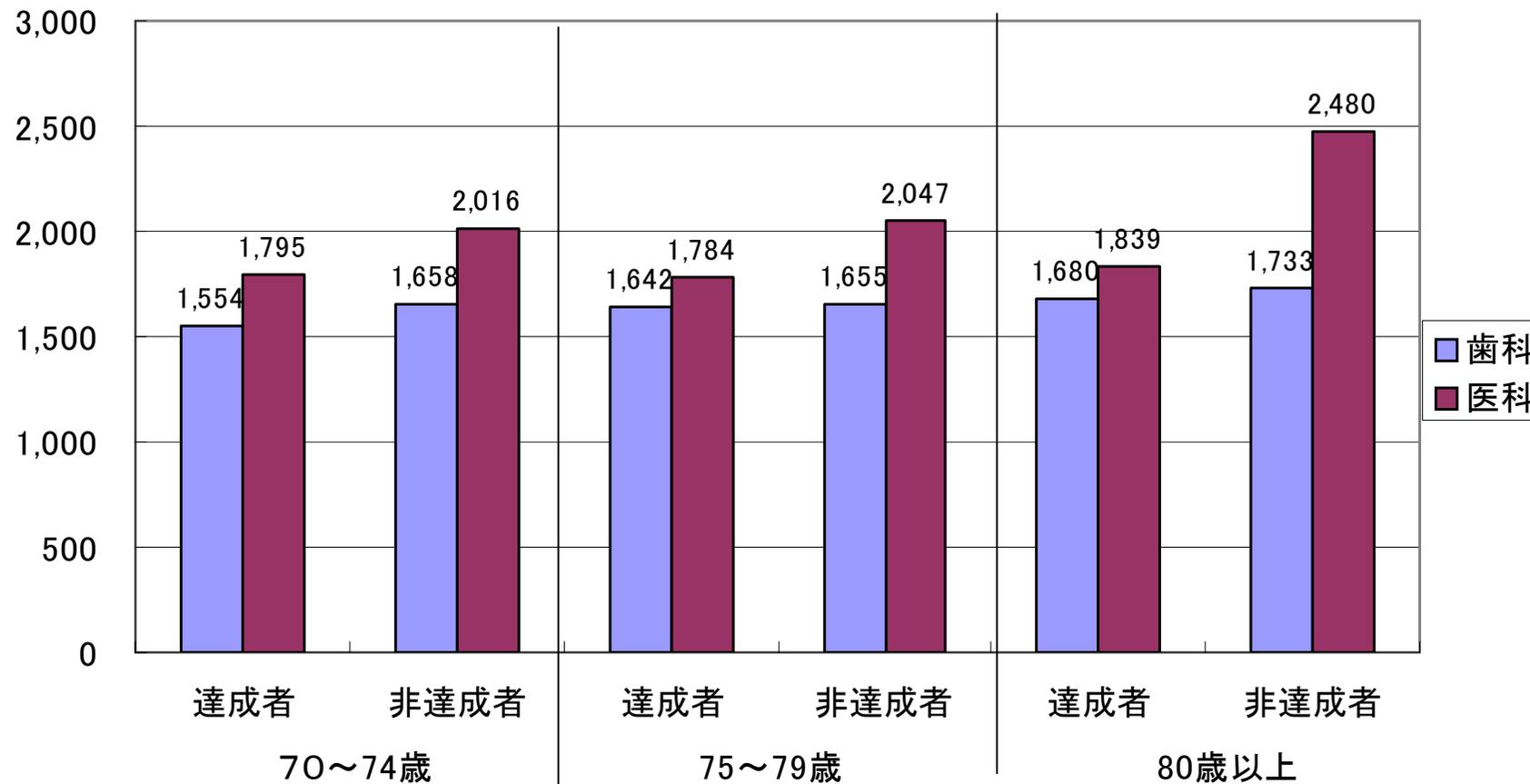


# 専門的口腔ケアが高齢者の健康や生活機能に与える効果



高齢者リハビリテーション研究会中間報告「高齢者リハビリテーションのあるべき方向」  
(平成16年1月)(抜粋)

## 「8020」達成者・非達成者別1件あたりの点数（医科・歯科）



兵庫県歯科医師会・兵庫県国民健康保険団体連合会:8020運動」実態調査の報告について, 2006

2005年5月診療分歯科レセプト数31,870件, 医科レセプト数55,093件

## 後期高齢者の口腔保健の現状

- 高齢者の歯の保存状況を見ると、80歳で20歯以上を有する者の割合は、ようやく20%を超えたに過ぎず、後期高齢者の多くは義歯などによる口腔機能の回復が必要となっている。
- 歯科治療はこれまで外来によるものがほとんどである。その歯科（外来）受療率は、医科（入院・外来）の受療パターンと異なり、75歳以上の後期高齢者で急速に低下するという実態があった。
- 平成18年度から「口腔機能の向上」が介護保険制度上位置づけられたものの、施設入所者を中心とした重度者に対する対応は制度化されておらず、こうした要介護高齢者、有病（入院）高齢者の口腔内状況が劣悪な状況におかれていることが指摘されている。
- 病院、要介護高齢者施設および在宅医療において、いずれも医科と歯科の連携が不十分である。

## 後期高齢者に対する歯科治療および口腔ケアの意義

- 「食べること」と発話・表情などを通じた「コミュニケーション」を直接支える口腔機能は、人がその人らしく生きていくために欠かせない機能であり生涯における QOL の維持向上に深く関わる。
- 後期高齢者の口腔衛生状態の改善と咀嚼能力の改善を図ることが、誤嚥性肺炎の減少や低栄養および ADL の改善に有効であり、健康寿命の延伸に寄与する。
- 脳卒中患者への歯科的対応は、入院期間中の急性期からが効果的であり、しかもそれは入院期間の短縮につながる。
- 歯数が多く、よく噛めている高齢者ほど健康で総医療費が低いという調査結果が報告されており、高齢者の口腔機能を維持・増進することは、活力ある健康長寿社会を実現するために不可欠な課題の一つである。

# まとめ

1. 後期高齢者の健康寿命を延長するためには、口腔ケア(管理)を含む歯科的介入がぜひ必要(医療連携を踏まえ)
2. 特に誤嚥性肺炎や低栄養の予防のためにも口腔機能の向上および義歯の装着・調整を含む維持管理などが必要
3. 唾液分泌が減少し、極度に口腔乾燥が起き易い終末期においては、特に口腔の維持管理が大切
4. 後期高齢者の健康保持のためには、早い時期から歯の喪失が防止されるようむし歯や歯周病の管理が必要